



いわき探検記



2024年1月 Vol. 23
地域おこし協力隊
辻村 春香

新年、あけましておめでとうございます。
私たち、岩木地区の地域おこし協力隊の任期も残り3カ月を切りました。
残り期間わずかですが、3か月間、精いっぱい活動したいと思い、新年を迎えさせていただきました。

企画・運営に携わっています!

居場所づくり “みんなの居場所ステップ44” 12月9日 「リースをつくってみよう！」

昨年度に実施したリースづくり。盛況だったので、今年も実施しました。
八幡地区にお住まいの方に講師をお願いし、飾りのリボン・小物のほか、先生が育て・乾燥させたドライフラワーや、採取してリース土台に編んだ蔓類なども持参いただきの実施です。
参加者は、5組9名（うち、お2人はお子さんに付き添いのお母さん）。体調不良で参加できなかった方もいらっしまったので、来年こそは、ぜひ参加していただけたらと思います。

今回の参加者は、五代・葛原・一町田・熊嶋・鳥井野の5町会から1組ずつ。ふだん、自分の町会以外の情報を得る機会が少ないこのことので、リースをつくりながらいろんなおしゃべりをしました。
また、参加者の1人が、11月の干し柿づくりでつくった干し柿をご持参くださり、みんなでご相伴にあずかりました。
和気あいあい。にぎやかに過ごし、最後はそれぞれの作品発表会をして「かわい〜」「すてき!」「カラフル〜」など、いろいろな誉め言葉が飛び交い、みなさん楽しそうで何より!!

みなさんの
作品たち!



次回予告

1月20日(土) 9:00~
「獅子舞をおどってみよう」

獅子舞に興味のある方はどなたでもご参加いただけます。
五代獅子舞は500年続き、長く五代集落の方達のみで構成されていましたが、現在は岩木地区の他の町会にお住まいの方のみならず、弘前市内の各地域の有志が参加して伝統を守っています。
その活動を1人でも多くの方に知っていただきたい、ということで、今回の企画となりました。
ギリギリまで参加を募っておりますので、時間ある方はぜひ、お気軽にご参加ください!
(1月1日広報ひろさき掲載!)

2月10日(土) 9:30~防災ワークショップ 「身近にひそむ災害とは!? ~体を動かして体験してみよう~」

「ひろさき未来創生塾 第2期」(実施主体:弘前市)の同期生で、防災土育成に関わっている弘前医療福祉大の友人に講師をお願いし、防災ワークショップをおこないます。

年始の地震・津波もあり、災害については備えが必要と再認識されたことと思います。

地区の備蓄倉庫に入っている、防災用品の使い方がわかるかも!? ぜひ、ご参加ください♪

募集対象:防災に興味のある方ならどなたでも。30名程度(定員になりましたら、募集締切)

参加費:500円(保険等)

申込方法:QRコード読み込みで申込みいただくか、お電話ください。2月8日まで。(Tel 090-7790-9925<平日9~16時> 事務局・辻村)



会場はいつでも五代多目的集会所です!

駒越町会 愛宕神社しめ縄づくりに参加しました！

東奥日報が取材に！！

(12月28日号に掲載)

昨年に引き続き、12月21・22・24日の3日間、駒越町会のしめ縄づくりにフルで参加させていただきました。

1年ぶりに作業するとあって、氏子総代長 保管のノートを頼りに、昨年の作業を思い出しながらの制作開始。それぞれの部品をつくるころまでは順調でしたが、部品の組み合わせに入ると、参加者全員の記憶を総動員…。それでもだめなら、師匠格の先輩を自宅まで迎えに行き、手順を教えてもらう…を、前半2日間で3回。

私個人は、昨年作業していなかった筵(むしろ)編みにチャレンジしたり、3日目の大俵に鳥居をかけるための綱をくりつけるときの作業に参加したりと、少しずつ作業範囲を広げることができました。

しめ縄作成の前半2日は平日、男手・若手が必要な3日目は土日実施ですが、なかなかメンバーが集まらず、また、若い人の参加が少ないのが悩み、と作業中に話が上がっていました。



1日目。友人でもあり神主になった東目屋地区の元地域おこし協力隊・石戸谷さんが見学にいらっやいました。東目屋のしめ縄とは形が異なり、部品も違うということで興味津々でした。

2日目には、岩木地区内で新規就農をした友人の若手稲作農家さんも参加。彼女は人生初の「縄ない」にチャレンジ。苦心しながらも徐々にきれいに縄をつくれるようになりました。来年は自分の稲の藁でもチャレンジしたい！との意気込みも…

3日目は、天井から吊り下げた大俵に綱をつなげる作業。通常、男性3人で綱を編みこむところに男性2人と私という構成で参加しました。力の強さが異なるので、引っ張られそうになりながら、何とか編み上げることができましたが、少々腰が…。

12月25日 五代蔵王地区 門松づくりに参加！

五代町会蔵王地区の有志が始めた「門松づくり」。

山の竹の管理が必要な方と、もの作りが好きな方の2人で始め、今回で9年目とのこと。

現在はご近所さん中心に10人前後で、約半日かけて組み立てています。

前日までに、門松を作ってもらっている方から作業場所に昨年の門松(植物性のものは外し、桶と土、造花を返却している)を預かってあります。造花は破損したり誤って捨ててしまったりするので毎年買い足し、また、正月飾りは紙製のものが多いため毎年更新しています。

自然と作業分担がされており、作業場所(=車庫)の中で動線も整い、竹を準備する人、桶に竹を立てて土台の土を入れる人、足元隠しの木の葉と松を飾る人、花を活けて正月飾りをつける人…と、チームからチームへ流れるように作業が進みます。

出来上がった門松を並べると、壮観!!

次回は「10周年なので、新聞に取材に来てほしいな～」と、夕方からの慰労会で話題になりました。忘れる前に、知り合いの記者さんに予告しておかねば～!!



対になる1組ずつ、次の作業場へ送りながらの流れ作業。次々に出来上がっていく!!

地機（じばた） 起動し始めました！

10月、11月と“はた”を譲っていただき、現在2台の“地機（じばた）”が自宅にあります。活動の中でおこなっていた“こぎん素材の探求”の中で、糸づくりにチャレンジしていたら、ご縁をいただき、私のもとに来ることになった機（はた）です。

「どんな糸が必要か？太さは？強度は？」というのを知るために、まずは地機の構造や使い方を知る必要があります。そのほか、布を織るときに糸にかかる負荷がどのくらいかわからないと、麻やからむしで糸をつくるときの太さや結束部分の強度をどの水準まで上げなければいけないかを判断しながら糸績みする必要があります。

機を譲ってくださった方のお一方から、経糸用の綿糸や裂くための反物も譲っていただいたので、まずは裂織で感覚を掴もうということになりました。もう1台の機を仲介してくださった裂織作家さんに先生をお願いし、経糸の整え方や機の部品への取付方、機本体への掛け方等を12月に教わりました。

年内に「織り始める」ところまではいきつけませんでしたので、年明けに続きを習うことになっています。

遠い道のりではありますが、地道に1歩ずつ、歩を進めていきたいと思っています。



整経台（せいけいだい）という道具を使って、経糸の長さが均一になるように糸束をつくる。



整経（せいけい）した糸を1わずつ、筵（おさ）という部分に通す。緯糸をかけたときに、緯糸を手前に詰める動きをする。



機（はた）に糸をかけた状態。正常に「綾が来る」か確認作業をおこなう。こちらは失敗作。正常に動いている機と見比べて、棒を挿す位置を替えたら「綾が来る」状態になったので、ほっとひと息。

展示予告：“からむし”の展示ほか

2月17日・18日 白神山地ビジターセンター「冬のふれあいデー」

植物の学習の過程でお知り合いになった、白神山地ビジターセンターの職員の方々。お誘いを受け、2月17日・18日の2日間、展示ブースを出させていただくことになりました。

現在冬ですので、生育中の“からむし”（こぎん刺しの生地のもととなった植物のうちの一つ）を展示することはできませんが、岩木地区で採取したからむしから取り出した繊維束、繊維束から糸績みしたもの、その他それらの工程で使った道具類を展示したいと云考えています。

また、写真家・八木橋廣さんのご協力を得て、からむしを商業作物としている福島県昭和村に移住し、栽培技術から製品化（からむし織り）を学んでいる弘前市出身の女性を取材した栽培風景等の写真も展示させていただく予定です。

加えて、1日だけですが、2月17日に民俗映像資料として作成された映画「からむしのこえ」（国立歴史民俗博物館、監督・分藤大翼さん）の上映を予定しております。

これまでの活動で得た資料や人脈に助けられての展示となります。今後の資料収集（文物、逸話等）にも役立てていきたいと思っております。雪道大変ではありますが、冬のお出かけ、いかがでしょうか？（弘南バスも通っています）

※「ふれあいでー」の参加は基本無料です。ワークショップ等に参加する場合には、材料費等の実費がかかるそうです。

「冬のふれあいデー」2月17日（土）～18日（日）9時～15時
⇒詳細は白神山地ビジターセンター ホームページをご覧ください。



退任後の展望について

ご縁をいただいて得た宮地の空き家。
そちらを拠点に農泊事業もしくは民泊事業をおこないたいと考えております。
長期滞在の希望者をメインに据えたいと思っており、移住検討の足掛かりになる場所にしたいと考えています。
当初は、農村エリアに移住体験のためのシェアハウス事業をしたいと考えておりましたが、法的規制があり、現状では実現できない見込みとなりましたので、方針転換する運びとなりました。
移住希望者と地域の方とのパイプ役になる人材となっていきたい、という思いは変わらずです。
これから拠点整備に入り、退任後に営業開始できるよう、準備を進めたいと思います。
派手な演出等は苦手ですので、地味～に地道に、これからも岩木の良さをいろんな方に伝えていきたいと思っております。

◆◇ 編集後記 ◇◇

雪のない年末年始でしたね。
青森県に帰ってきて3回目の新年。こんなにも気温が高く、雪のない1月は、気温とは裏腹にうすら寒さを覚える恐怖です。これも、異常気象なののでしょうか？
いまから、今年の畑の実りが心配ですが、今年はこれまで以上に気合を入れて、野菜の面倒を見ていきたいと考えております。実りもですが、きちんと成長できるように…。
みなさまにとっても、実り多き1年になりますように…。



① 夜生活に関わる民具を探しています。

“糸績みの講座”。外部講師をお招きして開催しています。
参加者の方々の声で「地元の衣服に関する民具」がなくなりつつあることがわかりました。
カラムシや麻の繊維をとるのに使った道具や、機織りの箆（おさ）、糸車、紡錘車（ぼうすいしゃ）など、衣服に関する民具を探しています。



② 不要の客用布団、譲ってくれる方を探しています。

退任後、岩木で農泊事業を実施したいと考え、現在、起業準備中です。
色々な方とお話していると、客用布団の処分を考えている方もあちらこちらにいらっしゃるとのこと。
捨てるよりかは譲っていただけると、環境的にも私的にも助かるな～、と思い、譲ってくださる方を探しております。



いずれも、情報いただけましたら、状態の確認に伺わせていただきたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先
岩木総合支所 総務課

地域おこし協力隊 辻村まで

Tel: 0172-82-1621
Mail: har-tsumimura@city.hirosaki.lg.jp

もろもろ情報
お待ちしております！



「いわき探検記」のバックナンバーは、市のホームページでもご覧になれます。